

肺がん早期治療を

26日 第4土日に精密検査

公立八鹿病院（養父市）は26日から、休日肺がん二次精密検査を始める。CT（コンピュータ断層撮影）

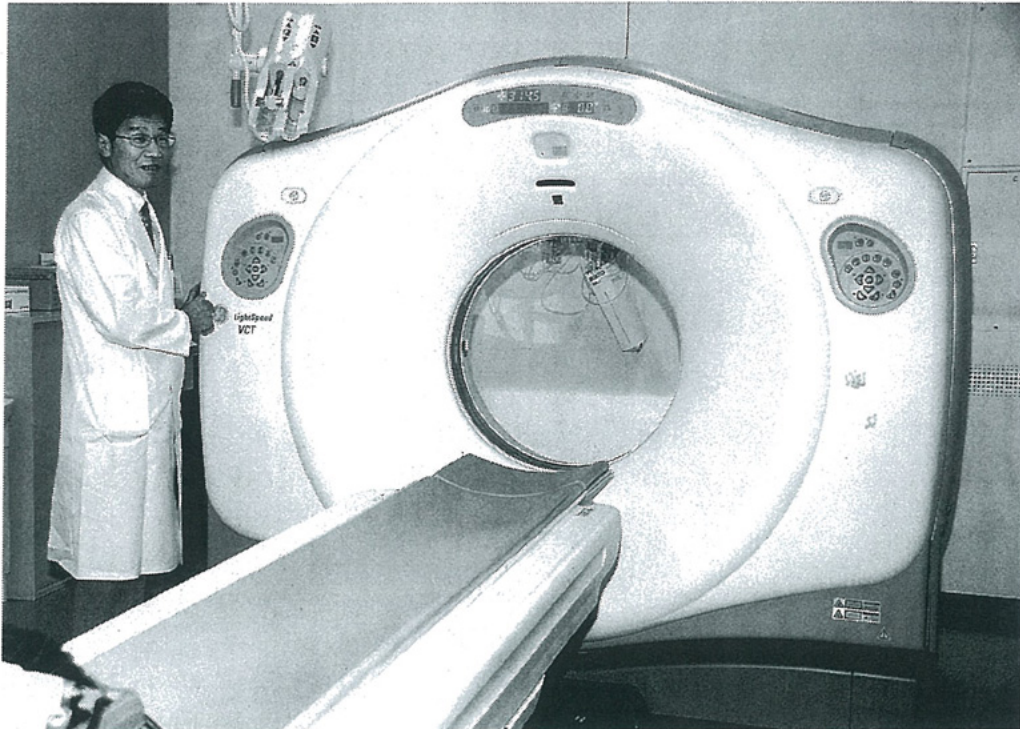
で、増え続ける肺がん患者の早期治療を目指す。肺がんは、病変組織が3センチ以下の第一期で見つかれば5年後生存

率は76・5％と治療成績も良好だが、組織が大きくなるにつれて生存率は大幅に下がる。CT検査は、一次検査の胸部レントゲン検査

よりも精密で、2センチ以下の組織でも発見でき

る。八鹿病院に勤務する鳥取大地域医療研究所の井岸正准教授が、同大医学部呼吸器・膠原病内科に依頼して実現した。レントゲン検査などで医師から受診を指示された人が対象で予約制。毎月第4土曜

の午後1時半～4時と翌日曜午前8時半～11時にそれぞれ約5人を検診する。井岸准教授は「平日に受診しにくい人も受けられるようになり、肺がん治療の効果がさらに期待できる」と話している。【吉川昭夫】



肺がんの精密検査を行うCT装置—養父市の公立八鹿病院で